

頑張りやのお母さん ありがとう

千葉県 富津市立湊小学校 五年 佐藤 宜之

「ただいま。」と、げんかんを開けると、「お帰りなさい。宜君、お腹すいたでしょう。やきおにぎりを作っておいたわよ。」

と、ここにこしながら、ぼくの大好きなやきおにぎりを作って待つてくれるお母さん。夕べは、ほとんど眠っていないのに、お腹をすかして帰ってくるぼくのために、おやつやきおにぎりを作ってくれたのです。

ぼくのお母さんは、和裁技能士という資格をもっていて、お店や近所の人に頼まれると、着物を縫っています。だから、約束した日までに必ず縫い終わって届けないといけないのです。夕べは夏祭り用のゆかたをてつ夜で縫っていたのでしよう。赤い目をしていました。

お母さんが着物を縫うようになったのは、白浜のお祖母ちゃんのすすめだったそうです。

「昔のようにお魚がとれなくなったので漁師だけで食べていくのは大へんだ。毎日毎日、船に乗って漁に出て働いても大した収入にならない。女の人は、子育てや食事の仕度など家の仕事もたくさんある。だから手に職をもったほうがいい。それにお前は器用で縫うことも好きだから和裁を習ったらどうだ。」と、お祖母ちゃんがすすめるので高校をでると千葉のお店に和裁を習いに通ったのだそうです。

初めは運針の練習ばかりで半年たった頃やつとゆかたを縫わせてもらえるようになったと苦勞話をします。五年間頑

張って花嫁衣しようやお振り袖など二通りいろいろな着物が縫えるようになったときは嬉しかったと嬉しそうに話します。

お母さんがぼくたち兄弟四人によく「努力に勝る天才はなしだよ。頑張ればできないことはないよ。」と話してくれます。この言葉はお母さんが頑張ってきたから言える言葉だと思ひます。その前の晩も夕べもお母さんはあんまりねていないらしい。お母さんの根気強さにはいつもおどろいています。

ぼくの家は、大学生・高校生・中学生の三人のお兄ちゃんとはくくの兄弟四人の他に、お父さん・お母さん・お祖母ちゃんとの七人の大家族なので食事の仕度だけでも大へんです。

ぼく達の大好きなシチューやカレーを作る時はキャンプ用の大なべで作ります。じゃがいもや玉ねぎ、人参の皮をむくと山のように積もります。この山のような皮をみるたびにお母さんのすい事の大変さがよくわかり、ぼくはお手伝いをしてあげます。

こんなに元気で頑張りやのお母さんが、お風呂に入った時、お腹の傷あとを指しながら

「靖君や宜君を産む時は大へんだつたのよ。もう少しで親子で死ぬところだったわ。お腹を切つてやつとお前達を産んだのよ。」と、話してくれましたが、命がけでぼくたちを産み育て、どんなに疲れていてもいつもここにこ元気に働いてくれるお母さん、ぼくは、こんなに働かざる頑張りやのお母さんをもつて幸せです。お母さん、ありがとう。